

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価					
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標		H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績					対前年度比			
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(1) 母子保健	① 安全に安心して妊娠・出産できる環境づくり	1	9	0	0	1	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	増加	94.2%	93.8%	94.0%	0.2 pnt	2	2	B	[指標の説明] ※妊娠11週までの妊娠届出者の割合は、前年度比増で、かつ90%超の高水準となっている。 ※生後4か月までの乳児家庭訪問の割合は、2年連続で上昇。 ※「10代の人工妊娠中絶率」は、前年度並み。 [評価] ➢10代の妊婦を含む妊産婦と乳幼児の健康管理や、養育支援が必要な家庭に早期に関わる取組みも順調である。また、新たに若年の妊産婦や産後うつなど、養育支援を必要とする家庭に対して、育児専門の訪問指導員を派遣し、育児・家事支援を行う事業を開始するなど、妊娠期から子育て期にわたる支援の充実を図り、効果的な支援を行うことができたと考えている。 [今後の方向性] ➢今後も、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、関係機関と連携して、母子の健康保持・増進を図り、安心して生み育てることのできる環境づくりを進めていく。			
		② 発達の気になる子どもの早期発見、早期支援体制の強化	0	2	0	0		生後4か月までの乳児家庭訪問の割合	増加	86.8%	93.0%	95.2%	2.2 pnt	2						
		③ 養育支援の必要な家庭に対する支援の充実	0	8	0	0		10代の人工妊娠中絶率	減少	16.0%	13.7%	14.1%	0.4 pnt	3						
		④ 基本的生活習慣の定着や食育の推進	3	7	1	0														
		⑤ 適切な思春期保健の推進	1	1	0	0														
		計	5	27	1	0	97.0%													
	(2) 母子医療	① 周産期医療・小児救急医療体制の維持・確保	2	3	0	0	1	周産期医療、小児救急医療体制	維持	維持	維持	維持	－	－	1	1	A	[指標の説明] ※市立医療センター総合周産期母子医療センター等4病院を中核とした産科連携体制を維持。 ※市内医療機関の連携による24時間365日対応の小児救急医療体制を維持。 [評価] ➢引き続き、周産期・小児救急医療体制を維持したことにより、市民に大きな安心感を与えることができており、本市の子育て環境の高評価につながっている。 ➢また、不妊治療の助成拡充や、子ども医療費支給制度の対象年齢の拡大にも取り組んだところであり、支援は順調に進捗している。 [今後の方向性] ➢引き続き、医師の確保などにより、支援体制の維持を図っていく。		
		② 子どもの感染症予防の推進	0	1	0	0														
		③ 不妊治療に関する支援の充実および市民の理解促進	0	1	0	0														
		計	2	5	0	0	100%													
	(3) 子育ての悩みや不安	① 地域における子育て支援の環境づくり	① 地域における子育て支援の環境づくり	10	33	4	1	2	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (i) 就学前児童	減少	25.6%	23.9%	25.9%	2.0 pnt	3	3	C	[指標の説明] ※子育ての悩みや不安を感じる人の割合は、前年度比増となったが、過去3年間でみると概ね同水準で推移している。 [評価] ➢親子ふれあいルームの運営や地域の子育て支援団体の活動支援、子ども・家庭相談コーナーや子育て支援サロン「びあちえーれ」における相談対応などの件数はいずれも増加しており、市民の子育ての悩みや不安の解消に、寄与することができたと考えている。 ➢一方、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は、減少傾向にあるが、「女性の社会進出、生活様式の変化等により、地域との関わり方にも変化が生じている。」「家族間・保護者同士のつながりに加え、幼稚園や保育所などとの関わりは高まっている。」という意見もあり、近所づきあいに代わる、様々な形で支援が広がっているとも考えられる。 [今後の方向性] ➢引き続き、子育ての悩みや不安をできる限り減らすことができるよう、これまでの取組みをさらに推進していくとともに、さらなる周知を図っていく。		
			② 市民が利用しやすい相談体制	1	7	0	0		(ii) 小学生	減少	30.2%	29.4%	30.0%	0.6 pnt	3					
			③ 必要とされる子育てに関する情報が市民に届く仕組みづくり	0	5	0	0		(iii) 中学・高校生	減少	32.9%	28.1%	29.9%	1.8 pnt	3					
			④ 少子化への対応や多様化・複雑化した悩みへの支援	0	5	0	0		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 (i) 就学前児童	増加	51.3%	49.0%	47.6%	▲ 1.4 pnt	3					
				3	7	0	0		(ii) 小学生	増加	64.0%	64.2%	61.1%	▲ 3.1 pnt	3					
			計	14	52	4	1	93.0%	(iii) 中学・高校生	増加	67.1%	61.1%	60.9%	▲ 0.2 pnt	3					

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価					
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標		H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績					対前年度比			
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(4) 家庭の教育力の向上	① 子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力の向上	2	11	0	0	2	18／19事業	朝食をほぼ毎日食べている児童の割合（就学前児童）	100% 【H29年度】	78.2%	93.8%	93.0%	▲ 0.8 pnt	3	2	B	[指標の説明] ※朝食を毎日食べている児童・生徒の割合は、いずれも高水準を維持。 ※就寝時間が午後10時以降の児童の割合は、前年度に比べ増となったが、過去3年間でみると概ね同水準で推移している。 [評価] ➢これまでの啓発等の取組みにより、食事等の基本的な生活習慣を身につけることの重要性が、家庭内でも浸透してきたと考えられる。 ➢朝食の内容の充実が必要な家庭が存在する。また、親の勤務の影響を大きく受ける就寝時間については、親の意識向上だけでは、改善が難しいと考えられる。 [今後の方向性] ➢引き続き、基本的な生活習慣に加え、生活の質の向上にも視点をあてるなど、さらなる家庭の教育力向上を目指す。また、働き方の見直しなど、社会全体で子ども中心の生活スタイルに改善する機運を高めていく。		
		② 地域等と連携した家庭の教育力の向上	0	3	1	0			就寝時間が午後10時以降の児童の割合（就学前児童）	減少	27.3%	22.7%	26.6%	3.9 pnt	3					
		③ 非行や虐待を生まないための家庭の教育力の向上	1	1	0	0			朝食を「毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童の割合（小学6年生）	100% 【H30年度】	92.9%	92.0%	92.4%	0.4 pnt	2					
									（中学3年生）	100% 【H30年度】	91.6%	90.5%	90.8%	0.3 pnt	2					
									家族の人が話をよく聞いてくれる割合（小学6年生）	増加	89.8%	87.5%	88.8%	1.3 pnt	2					
									（中学3年生）	増加	84.9%	86.6%	80.3%	▲ 6.3 pnt	3					
		計	3	15	1	0	94.7%													
	(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	① 事業者等との共同による仕事と生活の調和の推進	2	4	0	0	1	11／11事業	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	増加	27.4%	48.0%	49.0%	1.0 pnt	2	2	B	[指標の説明] ※仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合は、前年度に比べ上昇。 ※父親の家事・育児参加率も、前年度に比べ上昇。 [評価] ➢ワーク・ライフ・バランスについての市民や企業等に対する働きかけは順調で、広く意識醸成を図ることができた。 ➢「父母ともに」子育てをしている割合は、5割前後で推移しているが、父親の家事・育児参加率は年々上昇していること、また『「仕事が忙しい中、週末等に可能な範囲で育児に関わる努力をしてくれている。』『悩みや不安に耳を傾け、一緒に考えてくれる。』などの声もあり、父親の家事・育児参加は着実に浸透していると考えられる。 [今後の方向性] ➢引き続き、市民や企業等に対し、ワーク・ライフ・バランスの実践や育児参加を働きかけていく。		
									就学前児童をもつ父親が、家事・育児をしている割合（ⅰ）家事	増加	66.7%	69.3%	71.9%	2.6 pnt	2					
									（ⅱ）育児	増加	75.5%	90.4%	92.8%	2.4 pnt	2					
		② 男性の家事・育児への参画促進	0	5	0	0			主に子育てをしているのが「父母ともに」と回答した人の割合（ⅰ）就学前児童	増加	62.1%	51.2%	51.6%	0.4 pnt	2					
									（ⅱ）小学生	増加	44.0%	51.1%	49.8%	▲ 1.3 pnt	3					
			計	2	9	0	0	100%												
	(6) 安全・安心なまちづくり	① 子育て家庭が利用しやすい公園・遊び場の整備	2	2	0	0	2	30／34事業	子どもの遊び場や公園に対する満足度	増加	39.9%	48.7%	52.2%	3.5 pnt	2	2	B	[指標の説明] ※遊び場や公園の満足度は、前年度に比べ増加。 ※外出時に安心と感じる割合は、減少傾向にある。 [評価] ➢安全に配慮した公園整備や、子育てふれあい交流プラザなど屋内の遊び場の提供などにより、満足度が上昇していると考えている。 一方で、遊具やトイレなどハード面の充実を求める声や、ボール遊びが制限（地元要望を受けた地域のルール）されている公園もあり、満足度のさらなる向上のためには、こういった要望にも応えていくことが必要と考えられる。 ➢地域の治安・通学路を含めた道路環境など、外出時に安心と感じられるよう、更に改善に取り組む必要がある。 なお、小学生に対して行ったアンケートでは、外出時に「危ないと思ったことのある子（32.0%）のうち、 <u>「車が通ったとき」が48.4%で最も多く、次いで「公園で遊んでいるとき」（20.3%）、「自転車に乗っているとき」（18.8%）となっている。</u> [今後の方向性] ➢安心して子育てができるよう、公園・道路等の整備・改善に取り組むとともに、防犯意識や交通ルールなど、子どもを含めた個人や地域の安全意識の醸成も図っていく。		
		② 安全・安心を実感できる街づくりの推進	3	7	3	1			子どもとの外出時に安心と感じる割合	増加	55.4%	40.5%	39.4%	▲ 1.1 pnt	3					
		③ 子育てに優しい都市環境の整備	2	3	0	0														
		④ 子育てしやすい住環境の提供	4	3	0	0														
		⑤ 交通安全の推進	4	0	0	0														
			計	15	15	3													1	88.2%

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標						成果の評価		施策の総合評価	
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標		H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績	対前年度比				
2 子どもの育ちを支える幼児期の学校教育や保育の提供	(7) 幼児期の学校教育や保育の提供	① 保育の量の確保と教育・保育の質の向上	13	16	7	2	2	保育所待機児童数（4月）	0人	0人	0人	0人	±0	1	2	B	[指標の説明] ※保育所待機児童（4月時点）は、0人を維持。 ※保育所待機児童（10月時点）は、若干増加（9人）。 ※幼稚園・保育所の満足度は、過去3年間をみると概ね85％前後を推移している。 [評価] ➢保育所の定員増、小規模保育事業の開設、認定こども園への移行支援、一時預かり事業（幼稚園型）などを行い、受入児童数の拡大を図ったことにより、引き続き年度当初の待機児童ゼロを達成することができた。 ➢「景気的好転により、女性の社会進出が一層進んでいること」「積極的な保育の受皿の拡充が新たな需要を掘り起こしていること」等により、想定を上回る勢いで保育ニーズが高まっている中、就職説明会の開催や保育士・保育所支援センターの運営強化などの取組みにより、保育士確保に努めた。 ➢学校関係者評価や第三者評価を通じ、幼児期の学校教育や保育の質の向上に取り組んだ。 ➢延長保育や一時保育など親の働き方等に応じた多様な保育サービスを提供するとともに、新たに特別支援教育助成事業を創設し、特別な教育的支援を要する幼児の就園先を確保することができた。 [今後の方向性] ➢施設の老朽化や園庭の広さなどについての意見も寄せられており、今後も高い満足度を維持していくためには、ハード面の整備も必要と考えられる。また、教育・保育の内容の満足度を維持していくためには、職員配置や処遇の改善、職員の事務負担の軽減に取り組んでいくことも必要である。 ➢引き続き、年間を通じた待機児童の解消、満足度向上のため、ソフト・ハード両面から、幼児期の学校教育や保育の質と量の向上に取り組んでいく。
		② 幼稚園、保育所等における多様なニーズに対応した保育サービスの充実	4	3	0	0		保育所待機児童数（10月）	0人	246人	139人	148人	9人 (6.5%)	3			
		③ 幼稚園、保育所等における障害児保育の充実	2	7	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度（施設・環境）（i）幼稚園	向上	68.5%	86.9%	79.7%	▲ 7.2 pnt	3			
		④ 保育所、幼稚園等と小学校の連携の充実	0	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度（施設・環境）（ii）保育所	向上	72.5%	86.1%	86.1%	±0	2			
		⑤ 幼稚園、保育所等における子育て支援の充実	5	8	1	0		幼稚園・保育所に対する満足度（教育・保育の内容）（i）幼稚園	向上	74.2%	89.6%	85.4%	▲ 4.2 pnt	3			
		⑥ 教育・保育に関する情報提供	1	2	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度（教育・保育の内容）（ii）保育所	向上	84.4%	89.3%	87.1%	▲ 2.2 pnt	3			
		計	25	37	8	2		幼稚園における学校関係者評価実施施設数	90施設	54施設	54施設	82施設	28施設 (51.9%)	1			
			1	2	0	0		保育所における児童福祉施設等第三者評価の実施施設数	全施設	150施設	156施設	158施設	2施設 (1.3%)	2			
								【H31年度】									
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(8) 放課後児童クラブ	① 放課後児童クラブの運営基盤の強化	1	1	0	0	1	放課後児童クラブの待機児童数（4月）	0人	0人	0人	0人	±0	1	2	B	[指標の説明] ※クラブの待機児童数は0人を維持。 ※施設・環境の満足度は過去3年間をみると、概ね65％前後で推移している。 ※開所時間等の満足度は前年度に比べ増加している。 [評価] ➢希望する全ての小学児童を受け入れながら、平成23年度以降、待機ゼロを維持している。 ➢19時まで開所しているクラブの割合が前年度に比べ大幅に増加しており（実施率 12.0%⇒33.8%）、開所時間等の満足度の向上につながっていると考えられる一方、夏休み期間や土曜日の朝の開所時間を早めて欲しいという声も寄せられている。 ➢なお、<u>小学児童を対象に行ったアンケートでは、92.6%が「クラブは楽しい」と回答しており（前年度アンケート93.0%）、子どもの満足度は依然として高い状況である。</u> [今後の方向性] ➢放課後児童クラブの施設整備や利用内容の充実など、引き続き運営基盤の強化を図る。
		② 放課後児童クラブの魅力向上	0	5	0	0		放課後児童クラブに対する満足度（i）施設・環境	向上	61.9%	65.8%	64.3%	▲ 1.5 pnt	3			
			1	6	0	0		放課後児童クラブに対する満足度（ii）開所日・開所時間	向上	76.2%	73.4%	74.9%	1.5 pnt	2			
		計						【H31年度】									

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価				
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績	対前年度比							
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(9) 青少年の健全育成	① 青少年への社会体験活動等の機会や場の提供	10	20	2	1	2	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	増加	5,279人	5,415人	5,734人	319人 (5.9%)	2	1	B	[指標の説明] ※青少年のボランティア体験活動は増加。 ※非行者率は着実に低下。 [評価] ➢青少年ボランティアステーションでは、青少年の成長に欠かすことのできない体験活動に参加する青少年の数が年々増加しており、青少年の健全育成は、着実に進捗していると考えられる。 ➢非行者率は、減少の一途を辿っており、非行防止教室・薬物乱用防止教室の実施や、地域・学校・警察等と連携した支援体制が成果をあげていると考えている。 ➢いじめ・不登校等の問題については、確実な実態把握に努め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置や関係機関との連携により、きめ細かな対応を行っている。 なお、いじめについては、9月に全市一斉調査を行い、把握した事案を全て解決している。 [今後の方向性] ➢引き続き、関係機関等と連携し、青少年の健全育成に取り組む。		
		② 有害環境から青少年を守り、非行を未然に防止するための取り組みの推進	3	5	1	0		非行者率 (少年人口1,000人あたりの人数) 【H31年度】	7.0人	9.6人	7.9人	6.4人 ▲1.5人 (▲19.0%)	1						
		③ 危険ドラッグをはじめとする薬物の乱用防止対策の推進	0	3	0	0		いじめの解消率 (ⅰ) 小学生 【H30年度】	100%	91.5%	87.5%	9月に全国一斉公表のため、数値なし	—	—				—	
		④ 不登校やいじめの未然防止、解消に向けた取り組みの推進	0	4	0	0		(ⅱ) 中学生 【H30年度】	100%	99.2%	97.6%	—	—	—					
		⑤ デートDV予防啓発の推進	1	0	0	0													
		計	14	32	3	1													
	(10) 子ども・若者の自立や立ち直りの支援	① 若者の自立を支援する環境づくり	2	4	0	0	1	「YELL」来所相談者の就業等実績（累計） 【H31年度】	500人	241人	291人	337人	46人 (15.8%)	1	A				
		② 非行からの立ち直りを支える取り組みの推進	0	4	0	0		北九州市協力雇用主見舞金登録者数	増加	17人	17人	72人	55人 (323.5%)	1					
		計	2	8	0	0													
								10/10事業											
							100%												

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価			
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績	対前年度比						
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(11) 社会的養護が必要な子どもへの支援	① 児童養護施設における生活環境整備等の促進	0	7	0	0	1	地域小規模児童養護施設・小規模グループケアの実施が所数	23か所	13か所	15か所	16か所	1 か所	2	1	A	[指標の説明] ※家庭的な養護を推進する施設等（地域小規模養護施設・小規模グループケア）が増加。 ※里親やファミリーホームなどの普及率が向上。 [評価] ➢地域小規模児童養護施設を増設したことにより、社会的養護が必要な子どもが、家庭的な環境と安定した人間関係のもとで、きめ細かなケアを受けられる体制が拡大した。 ➢里親制度やファミリーホームの普及啓発を行った結果、里親等の委託率が20%に到達し、それぞれの子どもにあった養育環境の整備を進めることができた。 [今後の方向性] ➢今後も、社会的養護が必要な子どもが健やかに育まれ、自立できる社会環境整備に努める。	
		② 里親や小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の普及促進	0	3	0	0			【H31年度】				(6.7%)					
		計	0	10	0	0	100%	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率	20.0%	14.2%	17.5%	20.8%	3.3 pnt	1				
									【H31年度】									
	(12) ひとり親家庭等への支援	① ひとり親家庭の生活の安定と向上					2	ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用数（母子・父子福祉センター延べ利用者数）	増加	10,252人	10,015人	11,323人	1,308 人	1	2		B	[指標の説明] ※母子・父子福祉センターの利用者数は、増加。 ※ひとり親家庭の支援・相談窓口のうち、子ども・家庭相談コーナーを知らない人は減少。 ※ひとり親家庭の親の就業率は、母子・父子ともに、H23年度比で増加。 [評価] ➢ひとり親家庭の支援・相談窓口である母子・父子福祉センターの延べ利用数は、前年度比で1千人以上増加しており、多数の支援を行うことができた。 ➢子どもの居場所づくりの取り組みとして、仕事などの都合で保護者の帰宅が遅くなるなどニーズのある家庭の子どもであれば誰でも利用できる子ども食堂をモデル事業として市内2ヶ所で開始し、今後、民間が運営する子ども食堂の拡大に向けた一歩を踏み出すことができた。 ➢また、ひとり親家庭への支援として、新たに「ひとり親家庭面会交流支援事業」を開始し、ひとり親家庭の生活の安定と向上につながる取組みをさらに進めることができた。 ➢子どもの貧困対策については、小中学生の保護者向けに子ども生活状況等に関する調査を実施し、経済的な事情でどのような違いがあるのか把握したところであり、今後の施策推進のための基礎資料を得ることができた。 [今後の方向性] ➢引き続き、ひとり親家庭が自立し安定した生活を営むことができるよう、生活支援や就業支援などに取り組んでいく。 ➢子どもの貧困対策については、今回実施した調査結果を踏まえ、効果的な施策の推進に向け、関係部局と連携していく。
			2	10	1	0		ひとり親家庭の支援・相談窓口を知らない人の割合（ⅰ）母子・父子福祉センター	減少	58.8%	39.8%	52.1%	12.3 pnt	4				
			（ⅱ）子ども・家庭相談コーナー	減少	11.8%	14.5%		9.6%	▲ 4.9 pnt	2								
			ひとり親家庭の就業率（5年に一度調査を実施）（ⅰ）母子家庭 [H23 83.6%]	増加	-	-		87.9%	-	-	-							
		② 子どもの貧困対策	2	14	1	0	28/30事業											
								（ⅱ）父子家庭 [H23 91.8%]	増加	-	-	94.2%	-	-				-
		計	4	24	2	0	93.3%											

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況				活動の評価	成果指標					成果の評価		施策の総合評価							
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標		H26年度実績	H27年度実績	H28年度実績					対前年度比					
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(13) 児童虐待への対応	① 児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応および適切な支援	0	11	0	0	1	児童虐待対応件数	減少	454件	606件	918件	312 件 (51.5%)	-	-	A	[指標の説明] ※児童虐待対応件数は増加 [評価] ➢児童虐待の発生予防・早期発見等を図るため、関係職員等に対する研修会を実施するとともに拠点病院に配置した児童虐待専門コーディネーターを活用する「児童虐待防止医療ネットワーク事業」のさらなる推進を図るなど、対応強化を進めた。 ➢結果として、児童虐待対応件数は増加傾向にあるが、これは取組み強化によって、潜在化していた事案の掘り起こしにつながっているためであると推測され、「早期発見・早期対応」という本市の目指す取り組みが進捗しているものと考えている。 [今後の方向性] ➢児童虐待対応件数の推移を注視しつつも、引き続き、関係機関と連携し、児童虐待発生予防・早期発見・早期対応に努めていく。					
		計	0	11	0	0												11/11事業 100%				
	(14) 障害のある子どもへの支援	① 障害のある子どもの早期発見と相談・支援体制	5	11	0	1	1	専門機関・施設等に相談する割合	増加	50.8%	47.7%	72.1%	24.4 pnt	1	1		A	[指標の説明] 子どもの成長や発達、障害に関する不安等について ※専門機関・施設に相談する人の割合は、増加。 (なお、今回のアンケートでは、質問の仕方を変更し、「相談できる専門機関等がある」と回答した率ではなく、「不安等を感じたときに専門機関等に相談したいと思う」と回答した率を集計した。) ※友人や家族を含め、相談できる相手が全くない人の割合は微減。 [評価] ➢平成28年4月1日に、総合療育センター西部分所が開所したことに加え、総合特別支援学校が2校開校し、障害のある子どもに対する支援体制の充実が図られた。 ➢障害のある子どもの早期発見と相談・支援、全保育所での障害児の受入態勢の整備、就労支援コーディネーターによる高等部卒業生の就労支援など、障害のある子どもの成長過程に応じた支援を行い、障害のある子どもが安心して生活できる社会環境づくりを着実に推進することができた。 [今後の方向性] ➢引き続き、子どもの成長過程に応じ、切れ目なく相談や支援を行い、必要な時に必要な支援を受けることのできる環境整備に取り組む。				
		② 保育所等での障害のある子どもの受け入れや保育内容の充実と、小学校等入学時の情報伝達の強化	2	3	0	0		相談する相手がいない人の割合	維持	5.0%	4.5%	4.2%	▲ 0.3 pnt	2								
		③ 障害のある子どもの放課後対策の充実	2	2	0	0																
		④ ライフステージを通じた相談支援体制の強化とレスパイトなど保護者の負担軽減の充実	1	13	0	1																
		⑤ 重度の障害のある子どもへの支援の強化	2	11	0	0																
		⑥ 発達障害のある子どもへの支援の充実	2	7	0	0																
		計	14	47	0	2													61/63事業 96.8%			